

みえ県連協ニュース

2023年度 No.2 (2023年10月号)

三重県学童保育連絡協議会

津市下弁財町津興1350

059-226-6260

専用携帯電話 080-2651-5711

Eメール:miegakudou@outlook.jp

第1回拡大役員会を開催！

9月26日(火)、オンラインにて桑名から熊野までの役員参加のもと、第1回拡大役員会を開催しました。

2024年4月から義務化となります「安全計画」の策定について、地域の進捗状況等の情報提供も含め、各地域から活動報告を行い、意見交換を行いました。
(今年度は努力義務となっています。)

<地域からの報告>

桑名	<p>第1回市連協の会議を久しぶりの対面で実施。(5月)</p> <p>一度提出した要望の回答について、市と対面で話しあいを行った。書面に書かれていることも、直接伝えることにより前向きに対応してもらえると感じた。</p> <p>市も予算がない中で、どれだけ学童保育に予算が使えるかというところを、お互いに模索していくことになり、意見交換の場が必要だと感じた。</p> <p>夏休み中、どこの学童保育も支援員確保に困っていたので要望を出した。広報、ホームページ、SNSを活用して周知に取り組む協力を引き続き得ることができた。</p> <p>意見交換の場で、建物に対する定数について意見有り。市内の学童保育はどこも満杯。基準はあるが、安全面の基準に考慮して建物の増設や空き教室の利用について検討をお願いした。</p> <p>支援員の募集については、市も対応してくれる。</p> <p>津波の際の市からの連絡について確認できた。</p> <p>安全計画は、市がひな形を出し、各学童保育の実情に合わせ検討していく。</p>
	<p>一期目の市議会議員と意見交換会を実施(7月)</p> <p>一期目の方が多いので、まず四日市の学童保育のことを理解していただきたいと企画。支援員不足、民設民営で保護者運営等の所が運営に苦しんでいること、大きな2つの課題について話しあうことができた。</p> <p>民設民営なので、補助金は出るが、建物1つ建てるのも苦労していること等から難しい問題があることも浮き彫りになった。</p> <p>人材確保のため、高校新卒の雇用について進めているが、育てるというところが難しいので、手を上げる学童保育がないのが現状。インターンシップ等もやりながら、人材確保するにはどのようにやっていくと良いか今後も検討していく。</p>

昨年度話しあった結果、市連協は縮小しつつも存続していく方向で進める。

第1回市連協役員会(6月)

- ・安全計画について各学童保育の状況、引き渡し訓練実施状況、災害対策
- ・鈴鹿市との懇談会・交流会の実施について

市と市連協は鈴鹿市の子どもたちのために手を取りあって協力していくというスタンスで、交流会という形で行っているので、今後も続けていきたい。
昨年度大雪で交流会が中止になったが、要望に対する回答を出してもらった。

鈴鹿

1. 亀山市の学童保育及び児童数等

児童数に対する入所児童数の割合は増えている。

2. 6月以降の主な活動内容や市内の状況等

- ◆利用に関するアンケートの実施(6月)

市内全ての保育所・幼稚園に通う年少以上の保護者に利用希望等を実施。

- ◆市議会政策条例意見交換会(8月)

子どもの権利条約の制定にあたり、市議会の要請により懇談を行う。

- ・子どもに対して支援を行う中の課題、問題点。
- ・子どもの権利条約にはどんな視点が必要か。

◆その他

- ・電気料金支援

電気料金が高騰して負担が増えているなら市から補助されるが、負担が増えたかどうかの比較対象について申し入れた。

- ・学校外・家庭外での児童生徒用タブレット端末の使用について

コロナの延長で、タブレット端末を教育委員会から借りて児童一人ひとりに1台渡されている。家庭外では使用しないとなっているが、端末をつかう宿題が増えている。家庭外で使用できないとなると、宿題が学童保育でできないことになる。そのことについて説明あり。

3. 今後の活動について

- ◆市長懇談にむけての準備

- ・施設整備について、老朽化・点検、AED・静養室の設置
- ・最低賃金上昇や物価高騰等にかかる財政支援
- ・指導員の処遇改善(キャリアアップ処遇改善補助金の活用等)
- ・市の専門機関による定期的な巡回指導、懇談、支援
- ・待機児童対策

◆10月以降の指導員研修会、市研修(市と市連協共催)に向けて

- ・全体研修 「保護者との伝え合い」(10月)
- ・初任者研修 市と市連協の共催で5回に分けて研修を計画。

亀山

1. 活動報告

- ◆総会を対面で実施(市長、教育長、市議9名出席)

・今年度から、一般社団法人学童保育サポートセンターSAMに、事務局業務を委託している。

津

四日市

	<ul style="list-style-type: none"> ◆理事会（7月） 市への要望書について ◆津市放課後児童クラブ運営者会議（7月） ※津市主催・市連携協力 <ul style="list-style-type: none"> ・市から説明…安全計画の概要や作成について、運営マニュアル、会計マニュアル ・分科会…保護者会の役職によって分かれ、運営や会計について情報共有、意見交換を行った。 ◆放課後児童クラブ支援員等研修会「普通救命講習」（7月） ◆理事会（9月） <ul style="list-style-type: none"> ・市への要望書について 各学童保育から出してもらった要望を市への要望書としてまとめる。 ◆今後の予定 <ul style="list-style-type: none"> ・学童っ子まつり（10月22日） ・津市学童保育研究集会（12月3日） ・学童保育合同就職説明会（1月14日） <p><u>2、津市学童保育指導員の会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会（5月） ・研修 毎週火曜日午前中に対面で行っている。会員数61名（10月現在） ・ドッジボール交流会（12月16日 サオリーナ）
--	---

熊野	<p>【子どもたちとの取り組み】 高学年独自の活動も行ったが、低学年も含め全体での活動もできた。 10月以降も活動をいろいろ計画している。</p> <p>【その他】 12月に親の会の親睦会を行う予定。コロナの前までは、保護者と指導員の交流を深めるために、年2回実施していた。 今回は、1回目は子どもも楽しめるような内容、2回目は保護者と指導員も楽しめる企画を実施する予定。</p>
----	--

	<p><県連協></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆実施状況調査から ・支援数について <ul style="list-style-type: none"> 昨年の数字と比較して、学童保育の支援の数は増えている、それに伴い入所児童数総人数も増えている。とても人数が増えているのが読み取れる。 ・運営主体と開所場所について <ul style="list-style-type: none"> 特徴的。運営主体は、民営が多いので、保護者が中心になって運営が行われていることが読み取れる。 開所場所は、「公」の施設を使用するという公共施設が上位に入っているが、たとえば、公民館だとしたら、子どもが使う場所としてふさわしいかとの問題もある。 ・待機児童について <ul style="list-style-type: none"> 増えている。5月1日の調査なので解消されている場合も、増えている場合もあるかもしれないが、その数字を自治体が把握しているかどうか定かではない。
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・規模について <ul style="list-style-type: none"> 調査項目にある児童数「71人から100人」が、今回増えている。 三重県は、2022年度は6支援だったが、2023年度は12支援に増えている。 昨年度と回答が全く違うケース多かったので、聞き取りました。特に感じたのは、これだけ社会的認知度があっても、文書ではわからない部分をわかってもらうということに、対面に優るものはないか。 何がお互いの中でできるのか、担当者と話をしたい。継承しながら、連携をしながら、やっていきたい。 <p>◆令和5年の地方からの提案について</p> <p>「認定資格研修の免除」「基礎資格のさらなる緩和」が出ている。</p> <p>「免除していく」や「緩和していく」ということよりも、人の確保は大変だが、条件整備や人材育成に力を入れてもらう等を検討していくべき内容ではないか。</p> <p>こども家庭庁で議論されるので、注視していただきたい。</p> <p>※『日本の学童ほいく』9月号と10月号のP74・75「協議会だより」に記事が載っていますので、ぜひ目を通してください。</p> <p>◆放課後児童クラブの安全計画」について（県内地域連携調査から）<参考></p> <ul style="list-style-type: none"> ○行政からの対応について <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル、入力様式や記入例等が各学童保育に送られた。それを参考にしながら策定したところも多い。 ○策定にあたって力を入れたところ、留意したところ <ul style="list-style-type: none"> ・市と連携をとりながら、指導員研修会での学びを予定している。 ・新たに考えるべきことも多いと気づいたが、実際にできる形に寄せて対応方法等を考えるように心掛けた。 ・補助金の交付申請時に提出するので、来年度に向けて早めに作成したい。 また、保護者への周知として、総会資料等に入れ込むのかも話しあう。 ・従来あるものを見直し、明文化されていないものは新たに策定する必要が生じている。 ・従来あるものを見直したりしながら策定している。 ・策定しないといけないという意識はあるが、まだ取りつかれていない。 ○国や自治体への意見、要望等 <ul style="list-style-type: none"> ・安全計画の策定をはじめ、必要なことだけに、社会的責任と社会的向上を図るうえでの支援（事務的な作業をはじめとする補助金）が必要。事務作業が増えている。 ・マニュアルがあるので助かる。 ・具体的なひな形があれば助かる。
--	---

【今年度の取り組みから】

県との話し合い

- ・内容については、10月役員会で検討する。
- ・日程 → 11月17日(金) 10時~
- ・参加者 → 県連協：会長、副会長、事務局長、議事録担当
県：課長、主任、担当の3名の予定

第36回三重県学童保育研究集会

開催日：2024年2月18日(日)

開催方法：Zoom

<午前> 全体会：基調報告・記念講演 ウェビナーで行う

講師：近藤直子さん（あいち障害者センター理事長・日本福祉大学名誉教授）
『日本の学童ほいく』4～9月号連載 講座「子どももおとなもステキになれる学童保育」

演題：「子どもにも大人にもステキな仲間を」

<午後> 分科会：テーマ別に分かれて語りあいましょう！

★資料代：県連協加盟店学童保育は1,000円、未加盟店学童保育は1,500円

★チラシや申し込み等の詳細は、11月初旬に郵送予定！

第58回全国学童保育研究集会 11/4～5

21分科会「子どもの発達と学力」の三重県連協が配信を担当。

県連協役員の他に、津市連協から5名の方が運営スタッフとして協力。

県内から参加目標を超える申し込みがありました。

全国的な研修会には、いろんな立場の方が参加されて、学童保育のことを考える1年に1回の機会ですので、学びの有意義な時間になるようにしたいです。

【文化事業】

★劇団 うりんこ 観劇会★

3年ぶりの開催！！

小学校は宇宙ステーション

おじいちゃんおばあちゃんたちから夢と元気をもらうSFファンタジー

先日参加予定についてGoogleアンケートを取らせていただきました結果、実施する方向で準備を進めています。

◆とき：2023年12月26日(火)

◆ところ：津市南立誠小学校体育館（津市桜橋2丁目39）※津駅から東へ徒歩10分程度

◆時 間：午前と午後の2部公演

	午前の部	午後の部
人数	400人	400人
入場開始	10:00	13:30
公演開始	10:30	14:00
公演終了	11:35	15:05
休憩・質問	12:00	15:30
コーナー後	終了予定	終了予定

※質問コーナーがありますので、終了時間が多少前後することが予想されます。

公共交通機関でお帰りの予定の所は、時間に余裕を持って計画してください。

◆料 金：児童1人につき 1,200円

※引率者の費用について

- ・県連協加盟店クラブ 無料
- ・非加盟店クラブ 有料



※申し込みについては、11月に入ってから詳細をお知らせしますので、参加について是非ご検討ください。

【今後の予定】

10月24日(火) 19:30～ オンライン 役員会 要望書について

10月29日(日) 午前 全国運営委員会

午後 全国学童保育連絡協議会総会 全て Zoom

11月17日(木) 県との話し合い 10時～

読むサブリ 『日本の学童ほいく』 8～11月号

毎月、P74～75に掲載されている『協議会だより』は、国の動き、全国学童保育連絡協議会の活動などが詳しく書かれています。目が離せないページです。

学童保育を取り巻く情勢は、どんどん変化しているように思います。
ぜひ、目を通してください。

8月号

掲載者紹介

P37 こどもランド ★クイズだよ 6月号の当選者 なかやまひろきさん（三重県）
P67 読者のひろば 「国語辞典を手に」 小坂とも子さん（亀山市 指導員）

読みどころ

★特集 やっぱりいいね！学童保育の行事

P21～ 日々の「生活づくり」を確にみんなで楽しい行事を！

「子どもの要求」だけでもなく、「大人の思いやビジョン」だけでもなく、共に生活を営む主体者として、折り合いをつけることなども含めて、相談と確認をしあいつつ、具体的にそれらを実現させていくことが、一人ひとりがキラキラとかがやける時間につながる「生活づくり」なのだと思います。日々の保育に当たっていますと、岩手県の指導員の門田さんは書かれています。

これを読んで、行事は普段の生活づくりの延長上にあるものだと改めて確認できました。いろんな考え方があると思いますが、保護者や指導員の思いがたくさん詰まっています。行事について考えるきっかけになればいいなと思います。

9月号

掲載者紹介

P43 こどもランド 作文「春のつどい」 藤本瑠来（津市育生地区くるみ会 5年）

読みどころ

★特集 学童保育の生活と安全を考える

P10～ 学童保育での子どもの安全を考える（編集部）

子どもの安全を守るうえでの課題として、施設・設備・環境に関わる課題、「子ども集団の規模の上限」に関わる課題、指導員に関する諸条件の整備について書かれています。令和6年4月1日から「安全計画」の策定が義務づけになります。

P14・15に、学童保育で子どもの安全を守るうえで大切にしたい視点についてまとめられています。子どもが安全に安心して過ごすために、改めて各学童保育で考えあえたらよいと思います。

安全については、『放課後児童クラブ運営指針解説書』にも、具体的に書かれていますので、読んでみてください。

10月号

掲載者紹介

グラビア 【学童保育の紹介】 鈴鹿市 神戸小学校区かんたろう学童保育所
P40 こどもランド 作文 辻村愛彩（津市南が丘地区たんぽぽクラブ4丁目 5年）

読みどころ

★特集 保護者と指導員の伝えあい —子どもが安心できる学童保育を

P29～ 伝えること・伝えあいを通じて保護者と指導員の理解を深めあう（編集部）

指導員集団の共有や連携をベースにして、保護者と伝えあうことが大事なのかなと受け止めました。子どもの事実だけでなく、指導員の思いや願い、子どもにかかる姿勢や考え方を伝えていくことも、指導員への理解や頼を深めることに繋がるのではないかと思いました。

★P32・33 連載エッセー 心の散歩道102 「天高くさつまいも」 松崎運之助

今回は、さつまいもについて語られています。

「栗（九里）より（四里）うまい十三里」というシャレを、このページを読んで、久しぶりに思い出し、改めて言葉のリズムや意味、楽しさを学んだ気持ちになりました。子どもたちとさつまいもを食べたりした時に、ボソッとつぶやいてみませんか。子どもたちの反応が楽しみですね。

11月号

掲載者紹介

★こどもランド

P43 子どものひろば イラスト さがえ とおる

（北立誠地区放課後児童クラブたつの子会 4年）

読みどころ

★特集 子どもの権利と学童保育

P10～ 子どもの権利条約と学童保育 安部芳絵（工学院大学 教授）

かみ砕いて書いていただいてあるので、とてもわかりやすいです。

「実践の省察」のところで、大切なのは、一人ではなく同僚と共に振り返ることと書かれています。複数の指導員がいて、チームで子どもたちと関わるからこそ、大事なことだと改めて思いました。

また、この特集では、「子どもの権利条約」と学童保育のかかわりを学ぶとともに、1人ひとりの声を大切にした「生活づくり」の様子、大規模学童保育を分割して「生活の場」にふさわしく整備した取り組み、「子どもの権利」に関わる指導員・保護者の思い・願いが書かれています。

ぜひ、読んでください。

★P46～ 講座「子どもの遊び」② いろいろな遊び、それぞれのおもしろさ

大東文化大学名誉教授・子どもの遊びと手の労働研究会（手労研）前代表委員 須藤敏昭

P50に載っている「表：遊びの5つ種類（タイプ）と難易度」は、学童保育でもじみ深い遊びの代表的なものが載っています。また、それぞれのタイプの遊びの魅力についても書かれているので、興味深く、楽しく読ませていただきました。

ある遊びの調査によると、小学生の間で「よくやる遊び」の上位に「おしゃべり」があがっていることが話題になり、これをどう考えるかを話しあったそうです。須崎先生は、「おしゃべり」も「不定形」の遊びの一緒と捉えています。本文を読むと先生がなぜそのように捉えられたかがわかります。読んでみてください。

遊びの奥深さについて考えさせられました。